

障害者団体との連携

—できることを協力し合って—

東都生協は、社会福祉施設で作られたオリジナル商品の普及を通じて、障害者団体の活動を継続的に支援しています。p.2-3で紹介した、ねり状米ぬか石けん「セモラ」もその一つ。昨年から新たに取り扱いが始まった連携商品を紹介します。

連携商品紹介 その①

しいのみ応援野菜セット

野菜3種

茨城県石岡市のNPO法人どんぐりこころが運営する就労継続支援B型事業所「しいのみ」の皆さんが「しいのみ農園」で育てた野菜をセットにしたネット限定商品。産直産地・JAやさとを運営主体とする農業生産法人やさと菜苑(株)と連携して、地域の障害者の働く場を提供し、安全・安心な農産物を消費者に届ける取り組みです。Web注文「とうとねっと」でチェックして、応援してください！



ネット限定商品
野菜3種セット
498円(税込537円)

連携商品紹介 その②

ベトナムバインミー

奈良県の廃校となった小学校を福祉活用した社会福祉法人青葉仁会「RIKUGOの森」事業所で作られています。この事業所は、障害者が地域や社会の人たちと共に活躍できる場所として開所。たくさんの人の思いが詰まった「ベトナムバインミー」。一度食べてみてくださいね。

ベトナムバインミー
135g
598円(税込645円)



みんなを笑顔にする 心地いい居場所



福祉政策2035

社会参加で健康づくり

—福祉・介護ニーズに応えて—

声を出して歌い、 笑うことで健康に！～「うた広場」～

東都生協、城南保健生協の組合員4人で構成するバンド「フェアトレード」が生演奏で会場を盛り上げる「うた広場」。「みんなで歌う場所がほしい」という声がかきかけとなって2016年に始まり、東都生協でも城南保健生協、東京西部保健生協との共催で、2カ月に1度開催しています。



バンド「フェアトレード」の
皆さん(前方)。左端が横山さん

「うた広場」ってどんな場所？

司会・ボーカル・ギターの横山直城さんが、参加者から寄せられるリクエストを元に曲をチョイス。バンド演奏に合わせて皆さんで歌い、合間にトークや歌にまつわるクイズが繰り広げられます。参加者は歌がはかった当分の思い出し、時には歌に合わせて振り付けもしながら歌います。声を出して歌うこと自体が、健康づくりになるそうです。

トークが楽しくて
2時間が
あっという間！

参加者の
感想

もう8回目の
参加です。
声を出すのがいい！

毎回
60人超が参加。
皆さん楽しそう！



バンド「フェアトレード」の
皆さん(前方)。左端が横山さん

東都生協は、福祉政策2035として4つの重点テーマを掲げ、助け合いと協同の福祉を推進。誰一人取り残さない社会づくりを目指しています。

福祉といっても特別なことではありません。東都生協が進めるのは「くらし丸ごと福祉」。

商品やサービスを利用し、活動に参加することで自然に福祉の輪が広がっていきます。

室には可愛い
落書きが

入り口は
親しみやすい
黄色いデザイン



福祉政策2035

地域の居場所づくり

—地域課題の解決に向けて—

誰もが安心できる居場所 ～「ふらっと・とーと」～

東都生協足立センターに隣接する、黄色の三角形が印象的な建物。地域交流のプラットフォームとして、2024年7月にオープンした「ふらっと・とーと」です。「この場に集う人たちが、みんな平等でフラットな関係でいられる場所に」との思いから名付けられました。子ども食堂や地域住民の居場所として週に3日ほど地域に開放されています。



ボランティアさん
による絵本の
読み聞かせが人気



「ふらっと・とーと」ってどんな場所？

取材当日は、毎月2回開催されている「おひるごはん」とあそびの日」で、お子さんとその保護者、小学生が遊びに来ていました。

ボランティアの皆さんが手際よく調理し、配膳は子どもたちも手伝います。この日は東都生協が提供した食材を活用する「東都ごはんの日」。「さばの味噌煮は東都生協さんのものですよ」と施設長の齋藤さんから紹介がありました。食事の後はゆったりとゲームや折り紙、工作などをして自由に過ごします。

さばの味噌煮、
じゃがいもの味噌汁、
ごはん、ほうれん草のこま和え

取材
当日の
メニュー



参加者の
感想

ここに
来るようになって、
食べ物の好き嫌いが
なくなりました

*「ふらっと・とーと」の運営
は一般社団法人チヨイふ
るが担っています。東都
生協は施設・食材の提供
および見守り、調理補助
で共同運営しています。

組合員同士の助け合い 一食とくらしを総合的にサポート

誰もが安心して住み慣れた地域で暮らし続けていけるように。
楽しく組合員活動を進められるように。
東都生協は利用しやすく、参加しやすい事業と活動を進めます。

東都生協くらしの助け合いの会

ほっとはんど

高齢・病気・ケガ・産前産後・育児などで日常の家事などに困ったときに組合員同士が対等な立場で、お互いさまの気持ちをもって有償での家事援助でくらしを助け合う会です。

「援助を受ける会員」「援助する会員」「賛助会員」で構成されています。
*p.11参照



旧保育ママ

イクサポ

小さなお子さんを持つ組合員が東都生協の活動に安心して参加できるように、お子さんを保育する組合員同士の助け合いの活動です。

「保育あり」の企画は、事前に申し込むと当該企画に参加している間、イクサポに登録している組合員がお子さんを預かります。

*2026年度より
名称が「保育ママ」
から「イクサポ」に
変わりました。



声の商品案内

リーディングサービス

視覚に障害のある方を対象に、東都生協が商品案内を録音したCD（デージー）を届けています。

「声の商品案内」の作成は「視覚障害者と協同するボランティアの会（通称：やまびこの会）」の音訳スタッフが毎週休むことなく担っています。



重点テーマと取り組み

東都生協 福祉政策 2035とは？

東都生協は平和とよりよいくらしの実現に向けて事業と活動を進めています。福祉政策2035は左の**4つの重点テーマ**を掲げ2035年に向けて誰一人取り残さない社会づくりを目指します。



福祉政策2035の
詳細は二次元コード
からご覧ください

1 地域課題の 解決へ向けて 共創を進めます

地域とのつながりを生かし、
くらしを守るための
取り組みを進めます。

3 組合員活動を 活性化し、 参加・参画を広げます

誰もが参加・参画できるように
活動スタイルとコミュニティの場を
育てます。

2 福祉・介護 ニーズへの 対応を強化します

地域の居場所づくりなど、社会参加や
健康づくりにつながる
活動を進めます。

4 食とくらしの 安全・安心を 総合的に提供します

地域とのつながりを生かし、
くらしを守るための
取り組みを進めます。

心地いい居場所で楽しい時間を過ごすことは、おいしいご飯を食べると同じように、心と体の健康につながるのではないのでしょうか。自分らしく居られる場所、その場所に行くと思わず笑顔になる居場所を、ぜひ探してみてください。

地域委員会では、どなたでも参加できるサロンを各地で開催しています。商品について話したり、時には困り事を相談したり——楽しい情報交換の場になっています。ぜひ一度、ご参加ください。お待ちしております！

未来につなぐ 募金

「未来につなぐ募金」は、組合員から集まった募金を東都生協の商品に換えて、「子ども食堂」や「フードパントリー」などを行っている団体を支援するかたちを取っています。次回の注文から、優しさのお裾分け、始めませんか。

商品の注文と一緒に支援できます

募金方法は、注文書の**特別企画欄**に【365920】と記入し、**数量欄**に口数を記入します。
1口200円です。Web注文サイト「とうとねっと」、電話注文でも募金ができます。



団体名 JoyJoy クラブ

設立 2023年6月 代表者 堀 龍治さん 活動拠点 横浜市瀬谷区・大和市
活動内容 子ども食堂
メンバー 13人
ボランティアの受け入れ あり
広報ツール チラシ配布、ポスター掲示、メール配信

誰もが安心して暮らせる社会のために

助成団体紹介
Vol. 36

子どもたちと一緒に調理や片付けを行います。

横浜にある瀬谷キリスト教会で月に一度、小学生を対象としたこども食堂が開かれています。9時30分からの開始に向けて代表の堀さんは子どもたちを出迎えます。この地域には子どもの居場所がないことを知り、瀬谷区の協力も得て設立されたとのこと。ここでは食事をするだけでなく、食育レクリエーションとして、子どもたちも調理と片付けを手伝います。調理や食事を通して、食の楽しさやマナーも知ってもらいたいという思いが込められています。

持参したエプロンと三角巾、マスクを身に着け、小さな手でシューマイを丸めていきます。加熱調理はボランティアの皆さんにお任せして、子どもたちは公園へ。公園から帰ったらお昼ご飯が出来上がっていました。



片付けもお手伝い



外看板

食べられる量を
盛り付けます手のひらサイズの
ビッグシューマイ

この日のメニューは切干大根が入ったビッグシューマイと春雨サラダ、にらとトマトと卵のスープとひじきご飯。シューマイには未来につなぐ募金で助成された東都生協の豚挽肉と切干大根が使われていました。

シューマイ作り



「食育」と「レクリエーション」を組み合わせ、参加者と一緒に「楽しい食事」を実践している子ども食堂があります。例えば、みんなで今日のメニューを作ること。豆をさやから出したり、調味料を混ぜたり、ギョーザやハンバーグを成形したりと、子どもたちは楽しみながら調理に参加します。お手伝いの後はお腹も空き、自分で作った料理には特別な愛着が湧くものです。普段は苦手だと思っていた野菜や食材も、「食べてみようかな」と思えるようになるかもしれません。みんなで食卓を囲めば、料理の話題で会話も弾み、自然と食べ物への興味や感謝の気持ちも育まれます。家庭でも、楽しみながら食に親しむ機会を作ってみませんか？



食育 レクリエーション

column